

下塚本

故
横山有策氏
昭和四年五月
寄贈

下塚本
三
中

下塚本

取やとるは篇序

書肆 始りと思ふべきを

すゝ例の巻身おるふ力

しゆと津を探しし

句のさし境者と題しと画

た雨能とるは信ふ得く

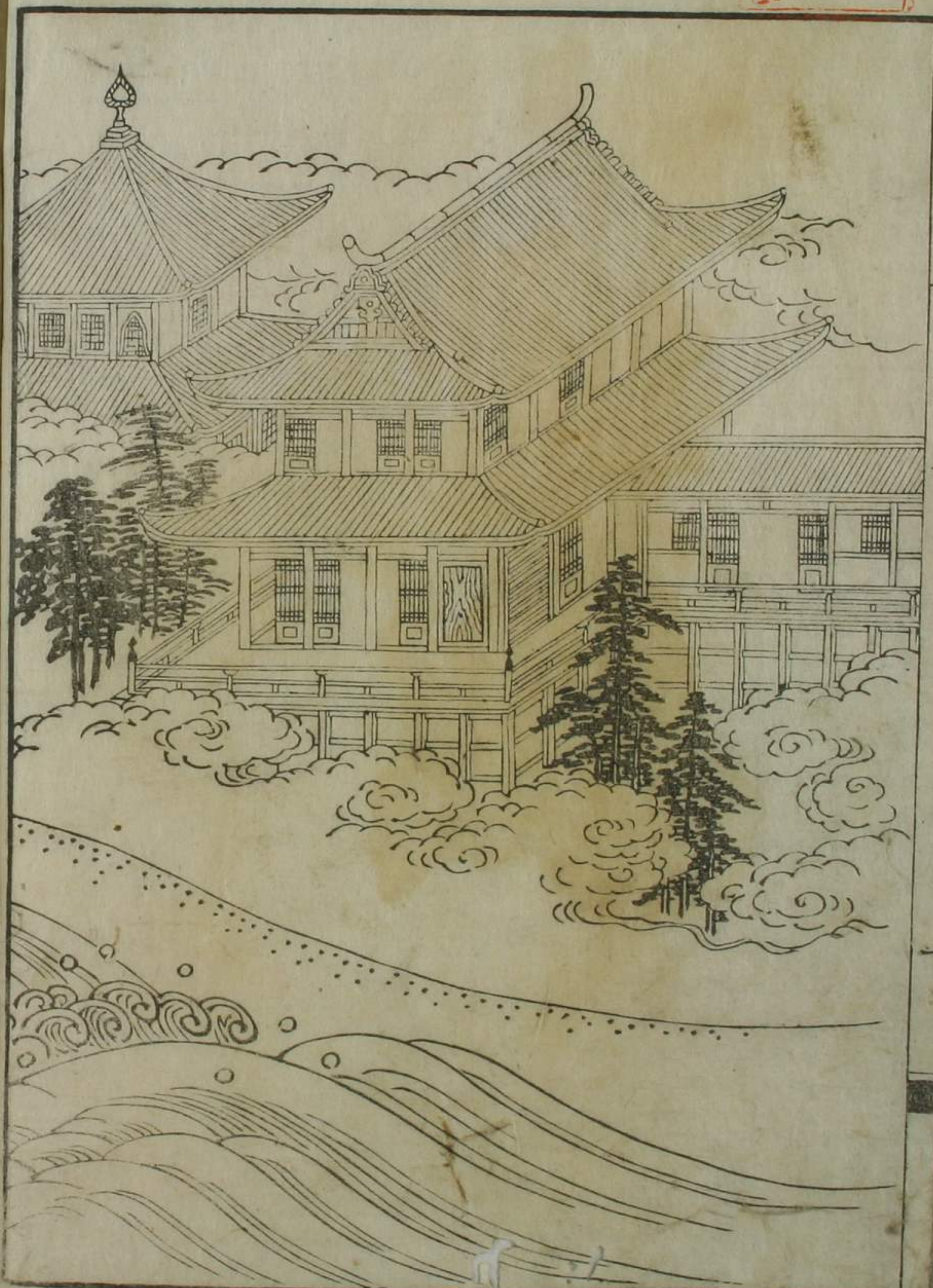
昭和六年の年 虚白斎

福喜

精上

阿 へ 13
號 2720
卷

清上



大徳寺

蛤鮑よむいん歎く曰或法印新紙よきて曰汝
の若生の雀有りしが殺生此結よく今蛤と
うりよと云き我今若生の世川しやうを悔と
ごもわひやうたん足もぬくふてさる記今れ新紙
が身の上ぐるよとぬとんひ事からん足下い
今生めくは鮑の貝れかと思いと女童小足る
ませ。後の生は蟹斗とぬり。婚禮の上座よ
直り。目出なれ。事とぬ。末親母一一く
押がすまん。鮑大口張く笑ひ。我死て後蟹斗

とるり。婚禮の座よ垂らん事ハ生若一どの浮
漱ふら志う汝うらす羨しく止よ。我後れ
世々蟹斗とあり。事貝とぬら。時今今の汝
の蛤と曰事。何ぞ生ぐれ味ひぬ押がへん。
百ふるらくも。確もこれ思雀の樂今れ汝が
ぞれ。胡蝶ふならてん胡蝶の樂胡蝶らんど。
莊周の愛ぬ事を知れべきや。よし。悔と
あまらたりとる。何の益う是ららん。君子素
其位不願其外とや。雀ごりか。は雀ぞ樂。

大鵬とるるべ大鵬とるるべ。樂校の肘こなるまかば。校の
肘こなるまかば。猿の尻と成るる。押を揉ぐ。樂
べ。目とねるる。鼻とるる。は香とるる。め
我爲るる。鬘斗と成るる。は言れ上座小並り
樂ん。ま。串貝と成るる。は。の。い。れ
中に遊ぶ。牛のおねるる。牛小なりたる。し。も
ろ。馬みなり。と。と。て。る。少。は。る。る。ま。ね。貴。織
貧富。本より。志。つる。其。上。變。化。盛。衰。々。世。の
中。此。帝。有。時。い。あ。る。に。任。せ。ま。時。い。は。る。る。に。よ

は。の。せ。唯。天。命。を。樂。び。べ。汝。愚。く。く。崔。れ
時。の。樂。孤。う。や。と。鈴。乃。亦。る。れ。と。愁。ま。死。の。し。も
苦。れ。本。苦。い。樂。の。も。や。汝。の。在。る。ま。し。ら。れ。も。
樂。あ。れ。ど。苦。い。り。り。驚。れ。呼。ぶ。不。忍。ま。して。の。チ。ウ。サ
得。え。ん。人。の。情。を。耐。え。ら。し。め。さ。せ。う。と。ビ。ク。く。
一。猫。融。み。も。忍。ま。し。ら。り。是。ま。し。ら。樂。孤。求。る。友。の
若。く。あ。ら。ず。や。今。幸。に。耳。な。れ。ど。驚。れ。呼。ぶ
の。忍。ま。し。ら。れ。く。人。の。情。れ。亦。も。見。守。樂。と。る。こ。わ
ざ。ゆ。申。慈。も。ろ。く。扱。ま。し。汝。亦。生。れ。せ。川。し。や。う。孤

大鵬とるる

悔^くす事^{こと}。是^{こゝ}す^ます^ま至^{いた}る^ま愚^やろ^ろり。大^{おほ}魚^{いさな}此^こ小^こ魚^{いさな}を
吞^のみ。大^{おほ}魚^{いさな}の小^こ虫^{むし}を合^あふ事^{こと}は。其^{その}他^{ほか}の父^{ちち}母^{はは}此^こ津^つ
敵^たし^るる^ま。身^み道^{みち}の^と先^まに獵^まつ^る漁^りは。祖^そ師^しも
洗^あゆ^りる^まされずや。唯^{ただ}戒^{かい}慎^{しん}べ^きま^ん。サ^い益^{やく}の殺^{ころ}
生^な。相^あら^うの益^{やく}乃^{すなは}ち殺^{ころ}生^なら^ん。ひや^ひく^くに魚^うら^りれ命^{いのち}
を而^{しか}ん。サ^い益^{やく}の^とり^まう^との^まり^まら^ん。よ^よら^ん。次^{つぎ}を
益^{やく}の事^{こと}に。色^{いろ}聲^{こゑ}を費^{つぎ}と^とも。じや^じく^くみ^みた^たる^まを
あら^うす^まら^ん。戒^{かい}と^と己^{おのれ}が^ま奢^{おご}り^ま。相^あ奴^{やつ}小^こ。世^よ界^{かい}の枝^え木^き
と費^{つぎ}に類^{たぐ}い。是^{こゝ}皆^{みな}サ^い益^{やく}此^こ殺^{ころ}生^なら^ん。ら^んら^ん

す。榮^{えい}耀^{りょう}の余^{あま}り。不^ふ善^{ぜん}生^{じやう}重^{じゆう}く。け^けの身^みを
殺^{ころ}す人^{ひと}も^もら^ん。ね^ねす^ます^ま不^ふ孝^{かう}め^めて。不^ふ身^{しん}持^ぢら^んら^ん。
父^{ちち}母^{はは}の^を多^た分^{ぶん}痛^{いた}む^ま故^{ゆゑ}限^{かぎ}を命^{いのち}に^あら^んら^んま^まと^とも。
殺^{ころ}ふ。山^{やま}人^{ひと}の^の山^{やま}し^しの^はあ^あし^し。芥^{さい}の^ああ^あ少^{すく}
雲^{くも}と^とま^まよ^よる^ま雪^{ゆき}折^{やれ}ど^とも^もれ。是^{こゝ}大^{おほ}く^く殺^{ころ}生^なら^ん。
い^い外^{がい}み^みゆ^ゆ。サ^い益^{やく}の殺^{ころ}生^なら^ん殺^{ころ}多^た有^ある^ま。せ^せ海^{うみ}に^よ
し^し海^{うみ}を^あら^ん。云^いふ^ふに^に刺^さら^ん云^いふ^ふに^に殺^{ころ}す^まる^ま。家^{いへ}は。
汝^{なんぢ}は^はな^なま^ま。耳^{みみ}に^に刺^さら^ん持^ぢら^んれ^れ貧^{ひん}富^ふ淳^{じゆん}沈^{しん}を
聞^き氣^きれ^れ。災^{わざい}の門^{かど}を^あら^んら^んま^まと^とも。人^{ひと}の^の長^{ちやう}短^{たん}。是^{こゝ}

非を乞ふ。美悪はよく似たものなれば骨を包みし
皮の色も迷ふ。生を生と樂しむるも死
を死と恐るゝ心も同じ。心のかげと心とするのを
明らにせしむる小徳を以て水に飽びかゝるを
これと我が身のこころは人と大に隔るるなり。
あつたは汝。や希れ風の来らんぬ。汝を以て
や。吾も門戸を叩く閑や。いづれ門戸を
堅固とせしむ。其門戸もこれと行汝は
ず。奇小皆人の知るる事なり。思ふが必ず

死を乞ふは。又古語に君子以行言
小人以言言と有り。我身體存より言
ゆるは誠なり。如此の事とて作者其意
を知らざれば事あり。まづ汝と婚禮小用る
由縁を我曾て是を聞。其具小は合は
合らざる。もこれと外との合は合は
即。貞女両夫小すみへざり。教よまの合は
合はし。けり。聞かど。我賢斗れあて。由來
の作者いさ。其意を知らず。是の後の君子は



○鎗持。金持。問。曰。羨。み。遣。持。居。り。み。成。き。や。守。
金持。う。保。を。き。か。ん。ん。と。り。ふ。う。か。ど。拙。者。や。り。と
き。か。ん。守。唯。徒。瓜。持。の。と。め。り。ひ。徒。を。お。こ。ら。ま。は。ば。
お。溜。が。粥。餅。も。喰。ふ。事。な。ら。ば。次。課。ぐ。道。中
ふ。ら。ざ。れ。ば。明。言。徒。瓜。を。何。に。お。ま。わ。ら。せ。ん。お。身。振。り。ま。す。
各。部。金。持。う。の。を。き。か。ん。守。ば。金。持。と。ら。う。も。同。じ
く。何。の。益。う。是。あ。ら。ん。金。持。う。保。と。き。か。ん。ん。と。り。
い。う。り。伏。ど。金。持。れ。曰。是。れ。は。だ。ん。く。保。有。じ
金。銀。を。世。界。の。貨。と。知。る。人。の。儉。約。と。奉。じ。と。く。

自身。の。栄。耀。お。ぬ。は。金。を。き。か。ん。守。義。あ。つ。く。
き。よ。金。銀。を。誰。う。是。瓜。金。を。い。と。云。べ。さ。わ。ね。
保。る。金。銀。と。己。の。と。の。と。む。む。む。人。の。金。持。く。も。各
部。金。持。う。の。保。を。り。ん。と。後。ら。ば。金。持。の。う。保。と
き。か。ん。守。は。吝。嗚。あり。儉。約。は。王。公。あり。私。に。王。
蘇。寸。も。り。り。殺。し。も。有。べ。し。ね。ま。す。ま。へ。こ。る。の
金。の。き。か。ん。守。却。く。金。を。き。か。ん。守。人。も。有。是。の。金。持
ば。り。り。で。り。道。具。持。の。道。具。よ。き。か。ん。れ。り。持。い。に
き。か。ん。守。家。屋。浦。多。く。持。ら。る。人。の。其。家。屋。浦。の。居。

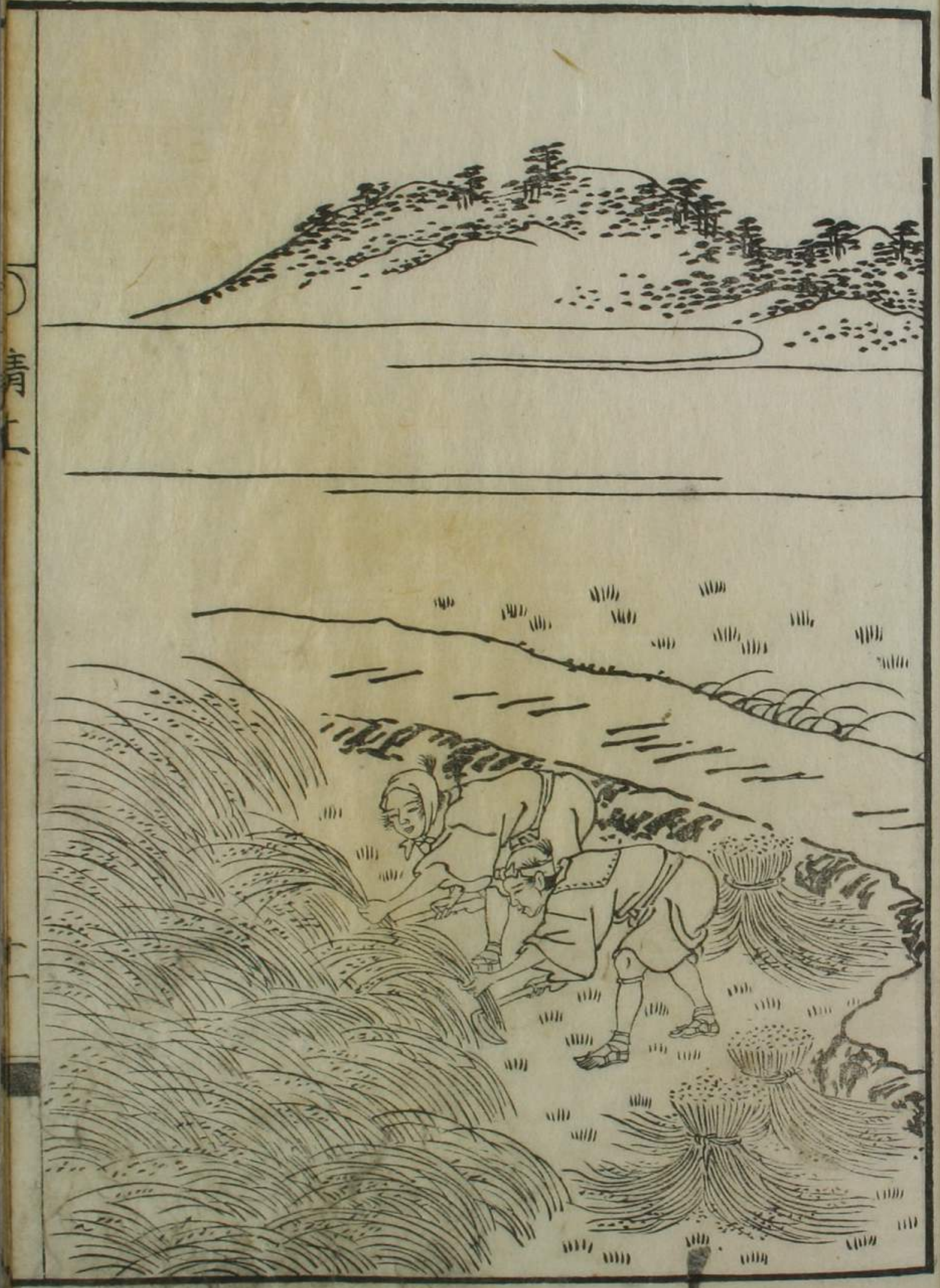
小をいれ人殺多抱へく人の其殺多れ人よきつるされ
も又人よよりべし。道も知り。是るし瓜知りきき
人の多持くもその金よきとれず。持くばきども其
持くばらにもきとれぬ。道もきりて。是る事瓜知り
けり人の金あまはらふよはらふれ。かたれば又その
事よきとる。古語よ不宝金玉而忠信以爲宝と
わり。道も瓜知りて。君よ忠。父母よ孝。朋友よ
信篤く。己が不欲しく瓜ば人よ施さぬ。心後の
このよ。身勝子で涙。面く此家職とせきたる

ずんが。金銀財宝其中小あり。なんぞ。多よはらひ
まんや。ねまし。道もきりて。不忠不孝の
事れもぬく。不義なる事と。不仁なる事と
く。いり。経金紙持くりせ。是なんぞ宝とん。磁猫
磁石を持く。却く害と招くべし。金を
寶と尊ぶ。何の存ぞや。不忠不孝を忌む。不
義を禮と名れ。身小辱し。瓜はらふゆい。不
不義理者と名らふ。吝乏と後られ。不持
者と呼ぶ。多持く。いり。何の存ぞ。ねまし。金

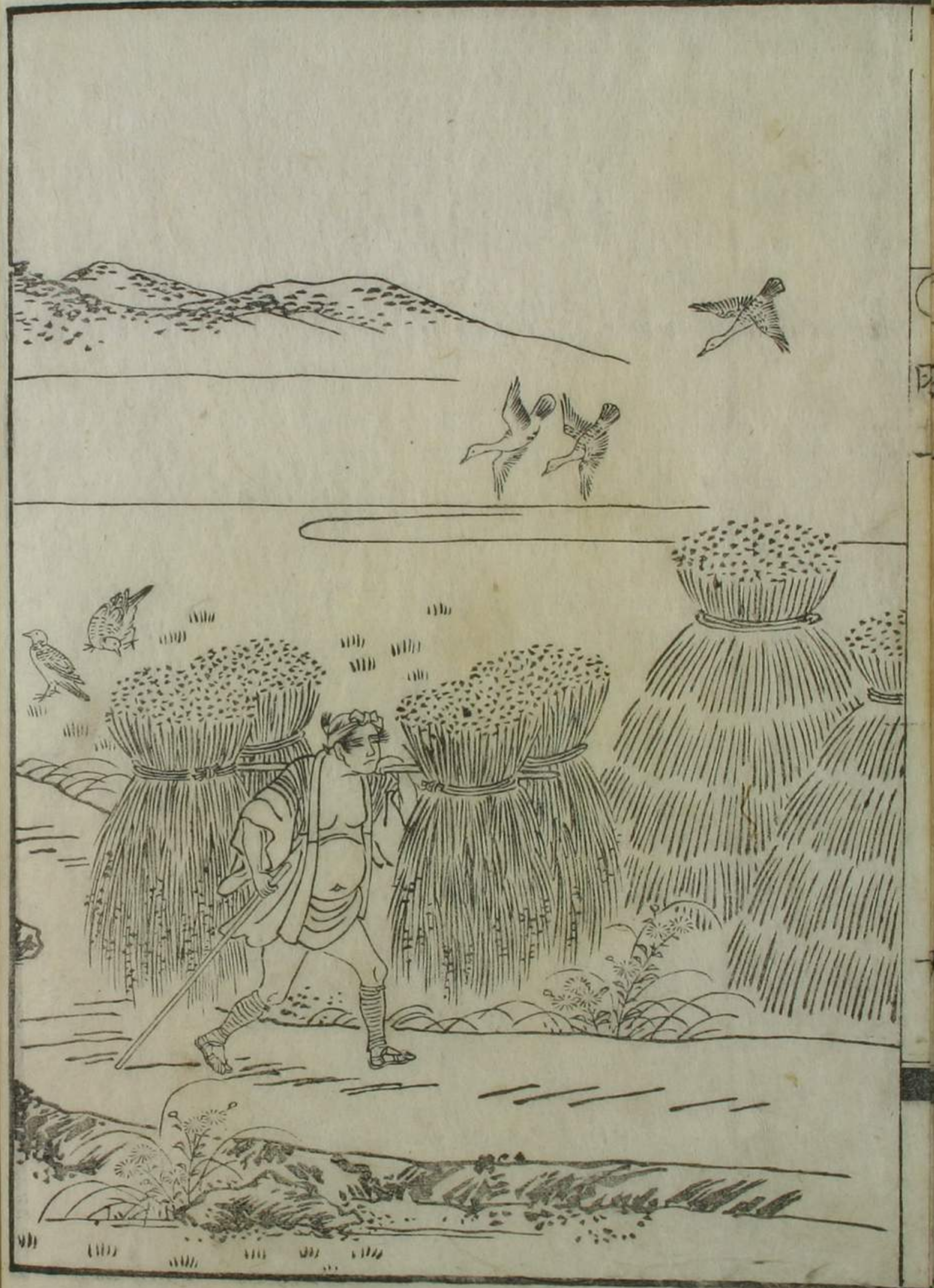
清止

を持らんとて。きつすべし。たへなき。つらふ。あ
川。く。く。を。殺。と。り。は。う。ふ。ゆ。に。半。に。き。う
ん。も。是。ま。さ。う。み。を。殺。に。り。随。持。ま。さ。同。
か。縁。が。敵。し。つ。世。活。あり。金。持。ら。る。敵。ら
う。金。持。し。つ。い。く。金。も。ん。ど。か。さ。さ。ん。
金。は。半。より。宝。る。ま。本。より。ま。う。の。宝。を。ま。
ど。も。是。も。ゆ。と。持。人。ふ。より。く。金。持。か。う。
真。び。き。人。の。真。ま。に。貸。べ。き。人。は。貸。され。ん。
恨。ま。ら。う。ゆ。債。は。ゆ。と。恨。ま。ら。う。金。の。出。入。が

公。半。と。り。敵。日。士。に。か。り。も。り。と。或。る。金。れ
換。失。よ。ゆ。ま。ら。う。病。や。く。死。も。あり。金
ゆ。ん。ゆ。ゆ。焼。水。に。溺。ま。ま。盗。賊。夜。盗。の。屋
に。命。は。ま。ふ。人。も。り。り。金。が。敵。に。欲。が。か。さ。ら。う。
金。が。宝。う。命。が。宝。敵。金。持。の。金。の。世。界。の。金。う。
随。持。の。い。く。金。持。れ。金。の。金。持。れ。金。ま。り。う。さ
る。事。は。金。ま。ら。れ。随。持。の。金。ま。あ。り。ら。ね
は。く。知。り。ぬ。ゆ。ゆ。金。ま。ら。い。随。持。の。金。ま。あ。り。ら。ね
金。ま。ら。い。り。返。付。出。と。な。ら。う。金。れ。も。ま。ら。く



清上



清上

○お乳の人丁稚小者よ向く曰小供此れは
乳母の能きものじや。結核かこれじやと嘆息す
思ふくらくら。夜の宵く寝ぬ人這入。昼も幼よ
かこいもく眠る時まらで寝初らゆ川
くま寐よまきぐ寝て。人の尻く一髪に起き大
それ程くく膳よ並り。お汁がゆるみの。はめよん
れと寝寝りよらり。お茶此ものに子箸まらり。
女房や。子供も。これ下の罪人。先見守に
ハツくくく。氣遣き侍いかされは身日相が

よもれば。ケラく寝ぬ。梶のとりやう。夢い。の寝
初。フンくくとたたりらじ。唯小西憎からよ。
私等も乳母よ物ぬきたまは。世間のうをれ身
持をとんく。小西も憎く。子の毒もとあはし
有り。この氣遣き侍よ。は。行末真加が悪人。
一生お乳もかりゆい小。災止る事わと思ひし。
家身の上の各鏡。今よ西うげの愛れも知れ。快。
人の愛相をほのほもさ。次明筆。此れ除あま
かたも知れず。第一真加はまららり。我も人を

乳母を公に出すといふ。曼大洲の才がうんまを
捨る。救ひあまじき身も捨る。救ひあまじき親を
三人涙を引おれ。袖く目見人よ物々時々
外の願わかんみえなく。河草子さへうさばあさ
給銀。仕着らるる。唯者角とひが一杯めて。
幼さぬれお嫌ひかされ。福も徳も。ごねされ。浄土にも
入らぶ。いとむの心は願七願。神佛の洗滌めく。
せんほし幼がお乳よ付。乳母よくし。幼守とてわ。
夫うとらうくお尻が重く。強保子にも人をい。私か

き幼びさへ人よ縫せ。私がやぶとてわ。おれとてぬ
ごりり。此類の皮。わのさ忘るる。や。産子守とてわ。
おれを。これか。うら。仕着。古着のうら。櫛へあま。
びやうな帯。さ。乳母の。何お。私に。い。ん。で。も。
か。ま。い。と。格の位。が。わ。れ。此。さ。さ。さ。い。わ。い。く。
後。い。横。丁。れ。系。屋。の。う。む。の。着。く。居。る。執。後。い。よ。い。
袴。ど。や。せ。この。乳。母。の。か。ふ。さ。ふ。帯。う。こ。れ。う。む。い。ご。ふ。
あ。こ。小。袖。と。ん。も。せ。ぬ。産。頭。の。産。所。沼。ん。よ。く。
勿。祈。る。い。着。わ。う。う。合。合。の。う。う。は。い。は。れ。道。具。履。

物すゞぐ。付よるまれば。身は。眞如の程が。わそ
ろ。い。さる。極遠の。出世の。身。ふら。人の。事。で。と
す。家。身。の上。よ。聞。さ。が。能。ど。の。子。供。で。も。日。ど。事。
ま。る。さ。へ。神。々。々。の。時。に。彼。衆。衆。の。これ。口。上。も。さ。あ。る
中。に。教。へ。給。ふ。吾。達。と。い。ふ。く。著。紙。の。名。を。入。讀。ん。ど。
朝。夕。膳。小。居。つ。て。い。左。右。の。糸。の。中。に。小。白。ひ。お。飯
が。焼。く。一。つ。川。と。私。お。と。く。色。目。ど。も。在。お。れ。不。自。由
な。事。の。忘。ま。さ。く。今。で。い。ま。程。有。る。か。つ。ね。勿。律
か。い。と。う。さ。ず。や。現。在。佛。は。命。に。親。ら。り。い。お。ん

佛。を。れ。の。な。れ。ば。身。持。た。せ。ば。尻。尾。極。小。隠。る。さ。な。く
さ。る。ゆ。え。勤。ま。さ。し。仕。せ。こ。ろ。い。一。なり。せ。必。ず。隠。し。て
垂。ね。ぐ。よ。ん。呵。れ。ぐ。怖。と。て。隠。し。く。垂。さ。り。空。云
つ。い。小。盗。の。下。地。と。い。ふ。人。の。大。な。疵。を。の。ぞ。扱。ま。さ
余。右。の。丁。稚。ま。ん。使。小。物。と。情。ひ。し。て。宍。布。と。る
を。さ。ん。く。居。さ。り。消。炭。ぐ。落。書。ま。さ。る。と。大。の。子。さ
見。つ。ま。や。溝。へ。い。れ。ま。り。通。さ。さ。り。たり。喧。嘩。し
し。る。と。買。答。る。と。さ。れ。る。供。も。あ。れ。ど。是。等。は
退。付。情。ひ。さ。る。隙。ぐ。で。は。人。の。悪。さ。を。見。お。る。さ。ず。

はむ口うげ口。しりて口大口の勿論より問はず。這へ
せぬものぞ。顔ゆくら。なる。意地な。小隅へ
這入く。ツブヤク子。片意地。の。と。て。人。が。嫌。ふ。
元服。し。く。猶。大。事。沖。ま。れ。洗。身。ふ。入。り。と。も。
家。の。洗。身。乃。き。ま。入。り。思。ふ。心。が。出。る。と。も。や。
出。頭。顔。が。ほ。み。あ。り。と。れ。終。身。の。基。と。成。す。は。
何。ん。の。功。も。や。り。て。主。人。の。洗。身。ふ。入。り。思。す。は。
福。の。媒。る。り。洗。出。頭。な。り。ど。か。お。を。頼。ます。ら。
故。ふ。ふ。こ。に。な。り。ね。頼。ま。う。と。思。の。と。れ。に。却。て

笑。を。引。出。す。もの。ゆ。り。沖。ま。人。の。身。ふ。入。り。其。身。ふ。入。り。と。
頼。す。利。發。る。れ。ば。其。利。益。を。ふ。の。ふ。り。藝。能。
の。ま。じ。ば。そ。の。藝。能。を。ふ。の。み。め。親。本。が。能。く。れ。ば。そ。の。
親。本。に。よ。り。を。頼。ま。り。て。鼻。の。先。へ。ん。の。お。終。り。
愛。相。を。そ。ろ。う。と。し。は。女。の。何。れ。も。ま。り。ね。ど。沖。
漢。沢。の。友。毎。よ。沖。隱。居。さ。ぬ。れ。洗。供。し。く。洗。示。し。
う。け。し。洗。後。ま。て。あ。し。は。家。身。の。非。儀。を。以。て。じ。
か。し。れ。身。持。を。悔。め。と。も。ま。ほ。し。水。を。拾。り。れ。
怒。ど。ぬ。も。あ。を。こ。が。さ。ぬ。や。う。に。慎。が。大。め。り。り。

歎よ。慎しめば福よから勤まれば貧ふ。この古き
の業。扱す。これかどかかこれといふ。七文字
の示し。けり。面くけし身はけよ。なまに出入る
ぞ。家身の福。何れも。つらまも。榮耀。慰み。
奉公に出と親なり。あゝ人の兄弟なれば。終の
家督を。いふ分。二人。小遣。てい。二人。うら。人
の下作。五川。み。分る。ば。猶。す。一生。在。これ。出
か。せ。何。國。の。親。も。親。の。心。は。ド。事。お。や。い
か。ふ。の。不。便。に。行。未。れ。未。の。く。れ。め。ぞ。思。ひ。

なま。公。さ。せ。く。お。世。を。待。親。は。れ。福。の。い。外。よ。か。し。
師。主。人。格。の。あ。ま。ふ。入。陰。を。う。そ。律。儀。よ。ほ。め。
お。陰。で。出。せ。し。く。れ。ぐ。竹。率。不。を。と。て。の。は
能。が。身。を。持。せ。あ。ま。い。福。は。よ。い。が。朋。輩。之。も。目。を。控
ら。ま。ね。ば。能。が。な。が。長。い。と。え。ん。れ。福。は。能。が。い。り。が
よ。く。福。は。よ。い。ぐ。と。明。言。親。を。是。の。と。案。る。親。は。の
側。小。座。ら。い。でも。何。が。も。孝。行。を。う。と。候。ど。や。
孝。行。も。出。来。不。孝。も。出。来。れ。今。も。よ。通。り。親
目。も。そ。真。体。よ。勤。め。朋。輩。之。も。ひ。い。ま。ど。く

御主人の沙汰入らんとく出世せられたと聞は親許
の恨む如何あらん是則孝行を乞ひ居
ても孝と本ある。不孝も悔むほど事。不孝も
とれどどこでも出来ぬ大事の家獄も身を入す
うろくくと不身持も。明革元の事よと合は。
人の異見も擽ぬ釘。あれどい末はばすも恨と。
親許の耳に入らぬよ。拍小釘を打てし。
押やれ字と痛らうらと大きる不孝の有得も
御主柄へ不忠なす。則親許へ不孝なり忠と孝

と瓜忘まるは。神佛も見捨られ。終るい何
さへ泣もなれぬ身と成へ。秋は朝夕
至し親と瓜あめたが神も仏もそのうれし。
か子代元の事よは。算筆の人並小おまね。高四
相應よしと通る。女のけしきとくどい事と云ぬが
よいと。流腹もなきが。甚人並の美事。どここれ
御座るゆえとらど。ごらこれお座で高四
すねやうめはぬらや。印より成人しやうに。
主親の流目をとすれ。冥加と知らざら得がら

ねと。世間のち代れよよある事。九川けりご
の。五川目かき落しり。七川目かき落しり。
九川目かき落しり。是みかその身れ
草を忘ま。思ふにわらう天得なり。落花
枝ようく次と成く。一交落て花実が咲ぬ
過くはるまぬそのち。月日ぞ若時と二交の
るん。ねい美時二交すくす後。美いお
かすは夢よ心得。若時二交るる後よ。盃が
来たらば酒分踊ま。奈よは精ごとて候も

せよ。浄る煙もかされ。之弦を弾。あぐん残も
きく。折よは酒も呑よ行くと。よみれ中よ小
思ひ。期もるん後。新瓜きん。春川。徳川。一寸先
の暗の礫跡。先人守に阿房。担い。是の上るん
刻らるるか。里。致よ。きんご。思悔。思ハる交
か。よよは流る水れ。帰るまぬなり。あ。時
二交。あ。思。程よ。勤じべき。事。の。思。流。なく。勤。め。
忠し。孝し。を。忘。れ。年。寄。て。若。時。の。不。忠
や。不。孝。不。身。持。や。不。勤。を。八。千。交。悔。て。も

ゆり事思。若時よ探ぐして。執く垂しこれ
誘るる。まや。あな作ぬよ。前時節小
すた舟。祢は。出たるら。お来て。も。実入。が。悪し。た
こい。ゆ。其時。言よ。前。其時節。に。極。附。く。も。由
断。一。く。草。でも。取。く。ぬ。う。不。持。め。く。糞。一。が
足。く。ぬ。う。身。よ。入。く。執。先。ざ。れ。ば。秋。入。り。時。よ
至。る。人。の。五。儀。七。儀。も。と。ふ。あ。く。ま。あ。の。心。二。儀
う。二。儀。其。時。小。天。窓。外。か。き。ま。時。持。ぐ。て
執。く。垂。く。能。う。い。ふ。申。は。を。せ。ま。い。よう

たに。心。子。交。悔。て。も。迹。へ。ん。な。る。と。宿。這。入。の。時
小。り。り。淨。る。り。や。之。弦。せん。や。躍。や。俄。ち。
間。よ。合。ら。ぬ。扱。ま。さ。あ。よ。麻。小。添。ふ。遠。を。見
ま。ば。在。の。中。れ。人。ら。と。ま。か。く。友。小。よ。れ。へ。し。
朱。小。交。れ。ば。赤。ふ。成。泥。小。付。合。へ。ば。泥。が。け。く。
悪。よ。人。よ。ゆ。ぐ。り。に。悪。き。人。よ。ま。よ。ら。ま。く。悪。く
う。る。も。よ。ま。ぬ。も。人。ち。と。ふ。う。く。友。よ。身。用。心。く。
款。よ。心。う。れ。る。ば。わ。した。通。も。入。ぬ。ぬ。し
さ。後。れ。駒。小。も。総。ゆ。り。す。か

雨のそと襦袢上之巻終

下塚エ

足懐あしも小向こむかひく回まわり手てもはるの役やくを足あしは足あしの
役やくあり。せれくは役やくを勤つとむ。一身いつしんの助たすなる次つぎ。
あつねよ汝なんど勤つとむすれど。我わが役やくを働はたらく事ことを
送いねるまを拵もつが勤つとくは。もつ長ながひのとりよ。御ご
法はふ度どの宵よひうらまを毎まいくも持もつ不ふ沙さ汰たとす。なる。
懐なごもしてマま澄すみをくく。火い鉢ひち小こあつればなれ
裏うらへ入いり。痲えん症しやうとつ小こ病びやうひあつう。表ひらくまももを
洗うひよふ川がは。其その交まじりて。其その交まじりて。其その交まじりて。其その交まじりて。
立た居ゐる足あしの役やく目めるれば。堪たんずる。勤つとむ事ことは。堪たんずる。
立た居ゐる足あしの役やく目めるれば。堪たんずる。勤つとむ事ことは。堪たんずる。

青下



あつらひの糸ひくひく我一日歩行草臥踏ひく
体足すれど膝の上よもみぬ垂く体是れ間も体
足させ候。是堪忍のなうぞね不何とまふ不
遠慮うづげやいご後。家おきうやくれるぬ。
突窓へるうとちめて並ぶす孫へもを並ぶれ。
足本れ明き四よ遣く改どは月ふおんせんと。
樹をまひくろげごん足も。頭おふくく曰我
いよよ居く尊く。汝下にて有て卑くやうた者い
そよよものよ後よい常れ通たり。あつれども本

一身の枝棄られ相身互小助今い汝の痒時ハ
かいてもきると痛じとたハ。控くもきると足皮をも
くろせ草鞋ともけつせ。折めは垢ぢれもやうく
きり。寒冷の時節よい。よばうく巨達もしそら
らせ。風呂よもきまじ。汝うたへ這入小あすや。
あふいともしらま。あまうりよしし玄ぬが膝
一本めく一身をきふにもあす。指の股よ
筆をけきみ。花鳥風月書くうとく。高が
一銭二銭の糸。笑止や汝博助あつらひ。

青下

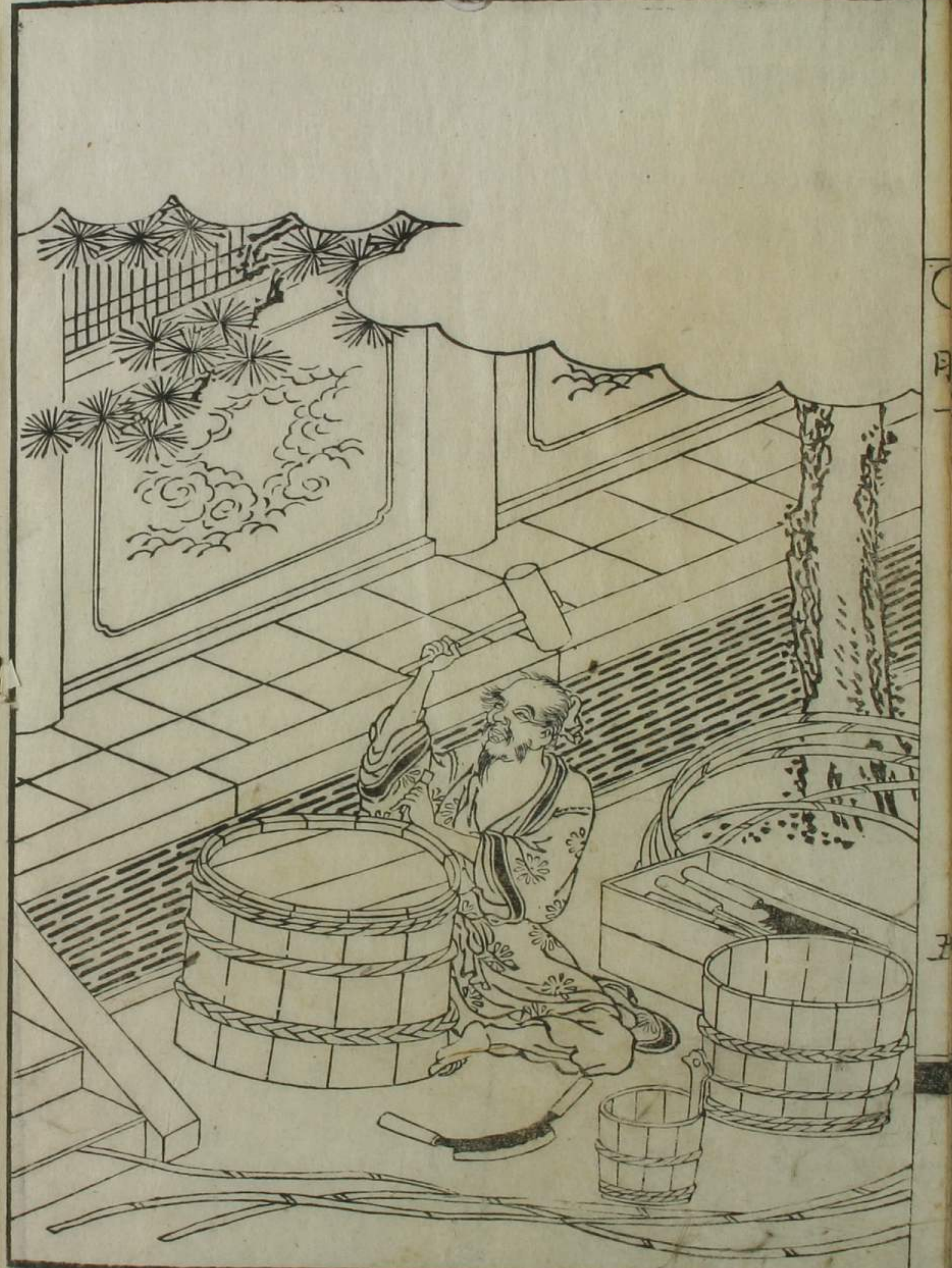
指先ゆびさきみ力ちからを入いま。ユ夫ユウしつと。みこねく
恥ちしじまは。ままよよくくどどんんどど踏ふままく。何なにも
ぞくぞく能よの踏ふで。汝なんぢ小洗せうせんしつとしつとななふふとと引ひか
引ひくく。一朝いちじょうの怒いかりに其その身みを忘わすれれは。汝なんぢが
事ことよ。ままよよ恥ち辱じやく與あんんとと。ままいい己おのれを辱ちぢせせかかく。
其その恥ち辱じやく一ひと身みの恥ち辱じやくををすすや。血ちぐぐ血ちをを洗せんしし
ととよよのめめて。血ちでで血ちをを洗せんすす。先さきの血ちをを除のぞきき
せん。跡あとの血ちぐぐももよよすす。ままいい恥ち辱じやくののははじじ。
是これれれ恥ち辱じやく。ままいい恥ち辱じやく。兄あにれれ恥ち辱じやく。弟あにのの恥ち辱じやく。弟あにれれ恥ち辱じやく。

兄あにの恥ち辱じやく。其その恥ち辱じやく父ちち母はは小ちひ及およばばと。身みの親おやの枝えだををり。
兄あにもも弟あにもも本もと一ひと株かきれれ枝えだ葉はかかままばば。兄あにの困えん窮きゆうと。
弟あにれれ困えん窮きゆう。弟あにの難なん澆じょう。兄あにれれ難なん澆じょう。咳せきととたたは
花はなの負なみめめははああくく涙なみだもも散ちららぬぬ山やま橋はしううか。
かかれれよよみみ歎なげききもも有ありり。じじうう一ひと天てん竺ぢくよよ一ひと此こゝ
地ちのの。其その地ちの尾おし。其その頭かぶはは向むかひひ。前まへをを汝なんぢがが伝たへへ
くく。頭かぶのの後あと。尾おしはは尾おしのの後あと。それそれくく此こゝ後あと
とと勤しんくく。一ひと身みをを助たすけけよよ。ままいい汝なんぢのの頭かぶををり
とと先さき小ちひ若わかききのの尾おしををりり。後あとみみ分わけれれ。是これ

青下

甚奇怪なり。尾の頭れく名に斐れども第一正の蛇さう
ずや尊卑上下あるは「今より我先へ行く汝是
より跡は付べし。頭の曰。我常に先よおじの頭さるれ後小
ちく私なきす公なり。汝尾をれい後よ付事。是すこ公
さうらうや智而用私不如愚而用公汝私智は有り
廻すしかうれと毎の行くことこれ肝積也。腹を
立本よりく巻付一寸も好じと喜地なる。頭今のとて
あはれ。さ程は思ふ。汝是より先よ立たぬ跡は付べし
と聞くゆくり。ゆれを尾めして前」が本より

目の望望な向ふ守にうくと行火の中へ轉落終は命
を失しと古書に出く有己が私智と据けし其身を失
のさうに本此株を仕舞しとい類ひ又世間多し私私
欲は身を任せ不持不届きを。己の欲親兄弟を
垢守泥も有。私智を垢据けし。己が家職の外と振ぶ。
手濡さず儲る二面さるぐれにくる。自身勿論親
兄弟を裸したる人も有り。是皆己が振らんと我は智者
と思ふなり。必ず私智は垢据するはくを止よ。くは
かゝるは己がくははかなくうたを猿のく声さきけ



○桶屋の弟子醫師の弟子小向。一礼しく回し問を
沛若勞にやり。流産より。早速全使者がれた位
合わりと。金額を尋ね付ま。書生の曰。是はく沛
叮嚀其えの此を此。風の甚微邪。そ捨く置ても
ゆるり愈る去か。服薬はれどは十日もか。心を服
茶めされ。故七日も。快を得る。須俣。さ。さ。さ。
中けるも。ツイ五日も。本復し。服薬の
流産も。二日も。速く。快を得る。其。さ。さ。さ。
人々ぬ。我等。ぞ。た。桑医の療治。た。人。

甚るる困じ。中なるもの。先の相人が。輕症なれた。
少くも。茶よ。人。お。お。お。お。お。お。お。
早いら。速いら。い。お。お。お。お。お。お。お。
でも。勝より。お。お。お。お。お。お。お。
砕き。も。お。お。お。お。お。お。お。
が。強款。か。お。お。お。お。お。お。お。
夫を。お。お。お。お。お。お。お。
れ。負。其。お。お。お。お。お。お。お。
穢。し。掛。ら。れ。お。お。お。お。お。お。お。

清下

夜半やまおぐよまめかきひでもよまのよま下
み下よと。誰がえくもきいなるまかぬ其よま
ぬそのいあうねとんそ法石す。あうそれる詔乃
通寸分遠入すあうくははに。医者い人の命に
れ至く重き職るま。幼少より医学とまげえ
夜学文よ骨分折ども。醫とあうりこく。學文
らかりでもゆる行うぬ。じうくも唐の捕屋れ
親父書物の古人の槽拍なるまとらうとあう
らうかど。白田水練や。木馬の梳音古く療治の

出来ぬ。身交も落馬し。骨を折ぬを行ぬ
とや。扱もその後の職の能とつよい。子一正
を臺めしてとら仕事なり。何の職でも。何高貴で
と。正直を臺にせざれば未だうげぬ。其苦とや。
正直の奉より人の持事なるま。け持事人の正直
五常ていへば。仁義禮智信の伝よらう。い
信をまう五行とく云うた。水火木金土
のよめあうり。春も夏も秋も冬にも四季
に土用の有く。仁よ義に礼よ智に。

ひ信が漆移るるぬ仁義でも礼智でも信が
マていほさこれに義礼智ぐれ父母に孝主
君よ忠も信も出さる忠孝にあつたれ信よ
似る信有り古語小信不誠と有り
朝夕曲は桶の輪れ曲る本れよりせむく
下ふでも不義用でも身も立家もいふものも
扱さる。ひ持おれ正曲なるは知らる人の己が私意
をわくく其の曲る本はし其のよ伊とる中人
信にふ枚子定本。その毎直は行ぬ答有り。

本よりあは異るる。持おれの正曲を利欲も曲
るるる慾も曲る。いらくへ曲。さらくへ曲。或る
寸を曲とく。尺を曲とく。直を曲とく。私案ぐ
曲は。曲もや曲らぬ我公。亦にも。木の川うらよま
はみ降雨のあじ風を夜の窓のうらめ。皆
身負負うゆがめくのあは。桶屋れ。子す。問て曰
良醫の未病を治と聞け。我如何病す。未病服
い。未病よ。未と生れ。つよま。らすや。書生。あふ
て曰。命の食よ。有つよ。飲食を。程よ。よと

し半るるに己が定本を抄子にりしに
飽食し。脾胃と損ふ人者又酒の百病に長
と聞えり。自身の得るは引く。百病の根
なる半る。さうらう人もゆ有る。是ど半るに
半を生じ。何ぞ服茶のそりん。古語よ酒所謂
養老所謂養病あり。扱ま。いま病ざれを
治し。怪家せぬらきに。怪家せ用公せよと
の半る。扱切を突く。茶よんを跡へんぞ。
持おれ正直よ。疾をばあるとよ半る。疾よ

天よるるに地ふくけらるる人曲るるに即の神
持おふ曲ざれば仰ぐ天。俯く地。何ぞんとも誰が
聞ても。らよいとも恥し。守れ而の字も。是が則。即
の神。あま。らよつとでも。不正直な半してん。能
い。おとも。に。糸。糸。が。悪。い。是。持。お。の。正。直。な。曲。り。
故。り。家。業。の。本。より。よ。は。は。下。を。は。ふ。と。
朋。友。の。交。り。に。も。唯。正。直。を。基。よ。し。と。一。人。
ふ。く。ま。だ。に。草。の。夏。登。れ。ら。も。ら。ば。あ。ま。忘。れ。る。
深。き。道。の。行。と。傷



○白鷺鳥よ問く曰我じう孝八聞し事
らうと雀下よりチンくと呼ば鳥上よりコカくと
啼。雀與鳥親子らんと云き。我徒鶴よ似れ
ども。人路の病の子なると云き。親小似ぬ子ら
鬼子と云。但し所謂ある歟。鳥答うて曰。
雀チウくと云て忠臣なりと云。鳥コウくと啼が
孝子なりと云ふ歟。チウくとコウくと事ハ易く。
はよ事ハかたはれたるを。嘗れ巢に育ても。子で
子みらぬ時多し。現を血を分し鳥も及舗

の孝るれもの我子にあはれ。古語よ。子不孝るれば
我子にあはれ。交不信るまが我友にらんと云すや。
必す其名よ泥しくられ。名い人うと。人うぬ人
もらう。是れ禽獸よわらふと云。禽獸ども羊ハ
跪く乳を呑鳩いす。云枝下け親を敬ふ。死ら
い我鴉の間似を。いさぶ鳩の間似の能いざれと
を。鷺まゝ問く曰。是れじう。勘左清門ハ鳥小吉凶
の声あると云。喜い鳥憂鳥をまじりに啼分て聞
せぬ。人もあはれじうより。汝の啼声を聞け。

或ハ喜び。或ハ憂。汝人の吉凶預め知らずや。吾鳥の回答。
家一日も啼うぬ日あり。なうぬ日れん鳥の声を。心
愁み懐く人の鳥啼が悪いとすまひかけ。喜び事これ
あつ家めは。なび鳥がうくとよ。後あふ。たのが音よ。ほ
き別の音ぞとな。たといもあつて啼鳥を。別を押し
さぬぐれ。いませといなひをよ。意地が悪う鳴と
恨。花よもなみど。なきた。鳥にも心を教する。皆其人
の心よなり。元朝の明鳥。声を常聞し。心うら。春め
くふあ。うらや。かすれ。心の吉凶を。なまかあ。

苦すんより。たのまが。心れ。吉凶よ。心な付く。泣くべし。
慎急よ。勝ど。たの吉あり。急慎よ。勝とき。凶ありと云
り。又災妖の善政よ。かす。悪友の善行よ。かす。と云
あり。捺は。追付。貧乏なり。慎よ。か。災害は。或わふ。
鳥啼の能を。期め。慎の心なり。ほ。ひまに
身を。持く。終小。家。心。亡せ。人。も。ら。り。鳥
啼の悪よ。を。心。ま。く。深。く。慎。善。事。と。行。ひ
ぬ。再。び。家。心。真。つ。く。人。も。ら。り。福。福。吉。凶。は
人。よ。な。り。何。ぞ。鳥。の。心。よ。ん。福。福。吉。凶。は

糾る索のごとく。変化盛衰の世の中此常なれ也。
易よ積善の家よ餘慶あり。積不善の家よ
餘妖ありと曰すや。は繩のメくら。は常れ常が
大業。求ふむあるもれ。是らづらるを苦こ。是る業
を知らづらるもの常に是らす。秋よ「業」是らむは是
れも任せくあくるは是らす。是ら身こそや
すくれ。踏鳥首んふとくあく曰奇に「秋」よは秋
よはるたよよ落しむを求むはこそ秋よふたなれ。
鶺鴒の嘴れ齧齧くら私案を取並さるは鶺鴒の曲を

とふ了簡ろくは心なれ尾のなぐく敷も邪六よ
るす白鷺の尾のやも半欠に家鴨の脰の短
かりも鶺鴒脰の長ろれも不自由ふとせ余らも
豆は。是らで業是ら身こそ中とくれ。孔雀や鶏れ。
羽根の美しう。且大ろるも飛行の燕や雀よ及
と守鳥ハ深ざれども白く黒く。踏ハ磨らばを本
より白く。柳ハみどり花ハ紅ハ。月夜がらす誰も
聞。闇の夜の啼う思かるとれく名きしう生
とぬえらたの父よ逢べー



清下

十五



附一

十六

○丸屋の親父。角屋の親父よむいふ。丸くまらや唯
あうかやや人か角れあれまはとれかあふよ。
角屋の親父まき吉次引く丸くまらと
かどらまらや人どらああ丸くまら轉ひあふまふ。
家等町人の分際なれどよと極れまらあふ。
祇おぼしめた町人の家へ治るまは。妻をよは
し免。子代小者とまらま。あふりあれら
丸くまらうび。姑息の愛よ落るまらり。ら
うごらまらや人どらあ。但しあふ其えれあふ。
町人のまらなれ。まらあも勝が徳。踏まて。

蹴まらも。鞠のまら丸くまらあふまら。
まら。饅頭のまら丸くまら。むしあふまら。
人があふまら。緒めるまら丸くまら人の腰ま
あふまら。まらかあや丸屋まら。丸屋の
親父。丸頭中抜ぐ。日其え。唯常ぐ。小四角
四角。二条。一歩まら。まら。金銀ぐ。西
まらと礼まら。上下袴ぐ。痛めけら。

禮レとんレとぬ。礼レの用レをレ極レにレ貴レとレす。唯レす。ふレやレ人レがレ後レ。水レ至レくレ清レくレはレ魚レ住レまレす。みレ川レ指レ。卷レ舌レとレつレよレ及レびレ。何レ程レ夜レ紋レがレつレもレぞレも。夫レがレかりレをレ礼レとレはレとレぬ。礼レのレ奢レんレよレまレはレじレしレ後レ儉レせレよ。造レらレもレ礼レよレあレりレ次レ。是レらレもレ得レてレ礼レをレす。唯レ九レやレ角レ屋レのレ親レ父レ声レ小レかレどレとレて。互レよレ争レふレしレ汚レれレまレかりレじ。さレけレとレ用レくレとレ名レ高レく。天レのレ命レをレ性レとレす。性レよレ率レふレとレまレはレ道レとレす。汝レ小

いレまレづレばレ性レのレ刻レとレじ。いレまレづレ性レをレとレすレはレ。方レ圓レ是レ非レのレ論レどレうレ事レ。頗レにレ摺レ子レ本レをレ之レのレ重レ相レのレ洗レふレ似レらレまレ。行レ届レぬレく。かレくレふレ家レ々レ。九レくレもレろレく。又レ角レにレもレかレたレまレのレ形レ。いレまレづレばレとレくレ。撰レ角レめレらレす。飯レ櫃レ小レとレあレらレばレ唯レ。声レもレろレく。臭レもレかレきレをレれレるレ。發レるレ秤レのレひレどレ目レのレどレくレ。嗚レ呼レ人レをレみレるレ。性レらレすレ事レをレ刻レとレすレもレ。其レ性レ天レれレ命レなレふレとレぬレとレ涙レ。天レのレ命レをレ事レとレ知レまレたレ。

情下

十一

